

小児心身症に伴う諸症状に 柴胡桂枝湯が奏効した症例



柿添 亜矢 先生

スマイル耳鼻咽喉科・歯科クリニック

1996年 佐賀医科大学医学部(現 佐賀大学医学部) 卒業、同耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座に入局
佐賀県立好生館、佐世保共済病院、大町町立病院などに勤務
2002年 祐愛会織田病院
2011年 高島病院 耳鼻咽喉科 医長
2017年 同 副院長
2019年 スマイル耳鼻咽喉科・歯科クリニック 院長

はじめに

学童期から思春期の小児の諸症状は心因的な原因が身体症状となって現れることも多く、めまい、ふらつき、頭痛、腹痛などを訴えて耳鼻咽喉科外来を受診することもしばしばある。

症例 1

症 例：9歳 男児。

主 訴：くしゃみ鼻炎、腹痛、倦怠感、食欲不振、頭痛。

現病歴：以前からアレルギー性鼻炎がある。鼻汁・鼻閉・くしゃみの症状が年中あり、X年10月に当院を受診した。受診時に母親から腹痛を起こしやすい、食が細く体格も小さい、頭痛もあるとの相談があった。

身体所見／東洋医学的所見：図1に示す。

臨床経過：東洋医学的所見より、小児の体質改善に用いる小建中湯で治療を開始した。2週間後には食欲が増し、1ヵ月後には腹痛を起こすことがほぼなくなった。3ヵ月後には、体重は3kg増量したと母親も喜んでいた。

しかし、5ヵ月後になると服用を拒むようになり、飲まなくなると症状が再燃し、またストレスもあるとのことであった。そこで、東洋医学的所見から柴胡桂枝湯3T/日(分1朝)を処方したところ、翌月の再診時には腹痛の消失、鼻炎症状の改善、精神的にも落ち着いているとのことで、3ヵ月間の継続服用後に終診となった(図1)。

図1 症例1 9歳 男児

主 訴

くしゃみ鼻炎、腹痛、倦怠感、食欲不振、頭痛。

所見・検査所見

身長 127cm、体重 20.2kg、体温 36.5℃、
血圧 93/77mmHg、脈拍 75回/分
鼻粘膜蒼白、水様性鼻汁
血液検査：ダニ・ハウスダスト強陽性

東洋医学的所見

色白、やせ型、猫背、なで肩。
舌診：淡白、薄苔、軽度歯痕。
腹診：くすぐったがりであり触れない、
腹直筋緊張はあり。
その他症状：易疲労、倦怠感、食欲不振、
頻回の腹痛。



↓
小建中湯5.0g/日(分2朝夕)を開始

治療経過①

2週間後：「漢方薬を飲めた。食欲が増してきた」
1ヵ月後：腹痛を起こすことはほぼない、鼻水は出る。
3ヵ月後：5割以上食べられるようになり、**体重は約3kg増量**と母親は喜んでいたが、…
5ヵ月後：「だんだん粉を嫌がって飲まなくなった」
「朝夕はいや、朝だけなら飲む」
「飲まなくなったら腹痛や倦怠感がでる」
「学校の友達関係のストレスがある」
「頭痛もある」
舌診：辺縁赤、腹診：腹直筋緊張、右胸脇苦満

↓
柴胡桂枝湯3T/日(分1朝) 30日分

治療経過②

翌月再診時：「腹痛はなくなった 鼻炎症状も安定」
「精神的にも落ち着いている」
3ヵ月間継続服用し、終了。

症例 2

症 例：13歳 男児。

主 訴：腹痛、下痢・軟便、立ちくらみ、頭痛。

現病歴：小学6年生のころから、起床時や学校での立ちくらみがあり、また食事を始めると腹痛、下痢・軟便があった。受診した他院の小児科や内科ではいずれも整腸剤の処方のみで症状は改善しないため、X年2月に漢方治療の希望にて当院を受診した。肩が凝り、頭痛もある。漢方薬は錠剤の服用を希望された。

本症例は、全国大会に出場するような運動部に所属しており、顧問からは常に体を大きくするために多く食べるように指導されていた。

図2 症例2 13歳 男児

主 訴

腹痛、下痢・軟便、立ちくらみ、頭痛。

所見・検査所見

身長 158cm、体重 48kg、体温 36.5℃、
血圧 98/55mmHg、脈拍 59回/分
聴力検査正常、重心動揺検査正常。

東洋医学的所見

色白、細身の筋肉質、表情は硬い、
後頸部～両肩にこぼり。
舌診：暗紫色、薄黄白苔、軽度歯痕。
腹診：腹力中等度、心下痞鞭あり、
腹直筋緊張、軽い胸脇苦満。



訴 え

立ちくらみはしばしばあるが耳鳴り、耳閉感はない。今は腹痛・下痢が一番つらい、げっぷやおならも多い。ギュッと痛くなったりゴロゴロするときもある。
母曰く「3人兄弟の長男で頑張り屋で我慢強い分ストレスをためやすい。かぜをひくと微熱が続きやすい」。

治療経過①

柴胡桂枝湯の証はあるが、まずは脾の清熱のため
半夏瀉心湯12T/日(分2・朝夕)7日分を処方した。
1週間後：舌の赤み改善、胃の痞えはよくなった。
食べてすぐの下痢はだいぶなくなったが、部活のストレスで腹痛が出て下痢をしたり頭痛はある。
立ちくらみは時々ある。

↓
柴胡桂枝湯12T/日(分2) 14日分を処方した。

治療経過②

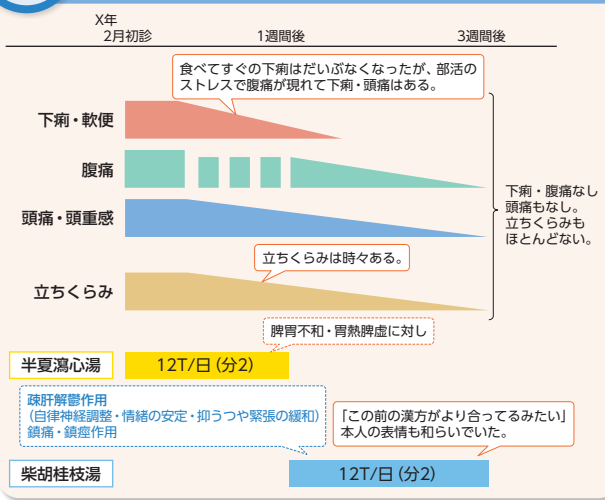
3週間後：「この前の漢方がより合ってるみたい」
下痢腹痛なし、頭痛もなし、体調がよいので立ちくらみもほとんどない。
本人の表情も和らいでいた。
柴胡桂枝湯錠を4週間分追加処方。
その後は服薬を自己調整し状態は安定。

身体所見／東洋医学的所見：図2に示す。

臨床経過：柴胡桂枝湯証だが、まずは脾の清熱のため半夏瀉心湯12T/日(分2)から開始した。1週間後には症状の改善がみられたが、部活動のストレスで腹痛や下痢が現れ、頭痛もあり、立ちくらみは時々あるとのことであった。

そこで、柴胡桂枝湯12T/日(分2)を開始したところ、3週間後には下痢や腹痛はなく、頭痛もない。体調がよく立ちくらみもほとんどない、と本人の表情も和らいでいた。4週間分の追加処方、服用回数は体調に応じて自己調整し、状態は安定した(図3)。

図3 臨床経過(症例2)



考 察

柴胡桂枝湯の使用目標は、「小柴胡湯証と小建中湯証の同居しているようなタイプ」であり、さらに性格は几帳面、神経質、不安傾向があるようなタイプに適している。このようなタイプで、ストレス社会での過緊張を和らげる柴胡桂枝湯は起立性調節障害での頭痛や腹痛などを訴える疼痛型に有効であるとの文献的知識をベースに柴胡桂枝湯を選択して著効した症例を経験した。

Discussion

- 木村：**柴胡桂枝湯は過剰適応のお子さんに使われることが多い処方ですが、抑肝散加陳皮半夏との鑑別も考える必要があると思いますが、いかがでしょうか。
- 柿添：**抑肝散加陳皮半夏は易怒性が強く、イライラ感を出表できるタイプに使用します。柴胡桂枝湯はイライラ感を出表できない“お利口さんタイプ”で、腹痛や頭痛などの身体的症状が目立つタイプに使用します。
- 木村：**頭痛などの症状では半夏白朮天麻湯との鑑別も考える必要があると思います。
- 柿添：**半夏白朮天麻湯は脾虚・気虚で、めまいや頭痛、頭冒感といった症状があり、それらの症状が悪天候で増悪するような胃内停水などの水毒タイプに使用します。柴胡桂枝湯は頭痛のほか腹直筋緊張や頸部の緊張が強く、頭痛、腹痛などの消化器症状が強い方に使用しています。
- 木村：**先生はお子さんに錠剤を使われることが多いですか。
- 柿添：**お子さんに限りませんが、錠剤なら飲めるという方が多くいらっしゃいます。